

予想以上に落ち込んだ前回からの反発はあるか ～米小売売上

2014年6月9日(月)

ほぼ予想通りとはいえ、直前に弱めの数字もあるのでとの警戒感が出る中だただけに堅調な印象を与えた6日の米雇用統計。
今週は、雇用と密接な関係がある個人消費の同行を表す指標
米小売売上(5月)が12日に発表されます。

前回4月分の小売売上は予想を下回る弱めの結果となりました。
3月の数字が強めだった分
その反動もあって少し伸びが鈍ると元々見込まれていましたが
実際の数字は鈍化が予想以上に。
全体の数字は予想の+0.4%、3月速報値の+1.1%(改定値で+1.5%に上方修正)に対して
わずか+0.1%にとどまりました。

なお、その内訳も予想外でした。
3月の自動車販売がキャンペーンや天候などの関係で一気に拡大した反動で
4月の自動車が弱めになるとの見通しから
自動車を除いたコアに関しては事前見込みは+0.6%と
全体の数字に比べて高めの数字が期待されていました。

しかし、4月の自動車販売が3月ほどの伸びではないにせよ前月比プラス圏を維持する中で
全体の数字が弱いという結果に。
自動車を除くコア部分は前月比変わらずと 予想を大きく下回りました。

価格弾力値(価格の差による販売量の差)が低く
3月に比べて全米平均の販売単価が上昇した分、小売売上ベースでは期待されたガソリンスタンド売上が
期待通りプラス圏となるなど
好調な売上を見せるセクターもありましたが
変動の大きい自動車、ガソリン、建設、飲食を除いたコアベースでは
-0.1%と予想外に減少する動きとなっていました。

こうした前回の数字は、
米景気が4-6月期に減速するとの懸念を市場に与え
ややリスク警戒感を強める結果となりました。
もっとも、その後の米主要指標が堅調な結果となったことや
6日の米雇用統計が好結果となったこともあり
個人消費の底堅さは変わらないという見方が拡大。
今回5月分は+0.6%と一気に伸びが拡大の期待となっています。

5月に関しては米新車販売台数が前年比+11.4%と大幅に拡大。
年率換算で1677万台という高数字になっています。
この結果が小売売上全体を押し上げるという期待につながっています。

自動車を除くコア部分では+0.4%と
こちらも堅調な地合を継続。
前回マイナス圏に落ち込んだ自動車、ガソリン、建設、飲食を除いたコアベースも
+0.4%と堅調な数字が期待されています。

小売各社による5月の既存店売上は前年比+4.6%と好調となっており
予想が少し高めとはいえ十分期待できるところ。
予想通りもしくはそれ以上で米景気回復への期待感が強まり
ドル高株高の動きを誘いそうです。